

研修ニュース

〒518-0814 三重県伊賀市上友生 785 番地

TEL&FAX : 0595 (21) 8839

E-Mail : iga-ken@iga.ed.jp

研修講座 特別の教科 道徳

「道徳科の特質を生かし、『考え、議論する』道徳科の授業

～道徳科の授業参観から課題を考え、解決する～

【講師】 岐阜聖徳学園大学 河合宣昌先生

8月19日（月）、岐阜聖徳学園大学の河合宣昌先生をお迎えし、研修講座「特別の教科 道徳」を実施しました。

初めに、道徳科では「教材をもとに考えを深めたねらいとする道徳的価値について、自己を見つめること」が大事だという話がありました。ここで言う「自己を見つめる」とは、これまでの自分はどうかであったか、そのことを今考えるとどうなのかについて自分自身と対話することです。

次に、6年生の教材である「ことばのおくりもの」（友情、信頼）の模擬授業を通して、発問や板書の仕方、学習活動で大切にしたいこと、学習のまとめ等についてご指導いただきました。

発問については、授業者の問いかけに対して答えが1つであるような「閉ざされた問い」ではなく、多様な考え方・感じ方を引き出せること、子どもが必然性をもって考えられることが大事であり、1回の授業につき、人間理解、価値理解の発問はおおむね1つに絞ること（発問の精選）がポイントであるとのことでした。



板書の仕方については、要点をまとめてできるだけ短く書くこと、一枚絵（教科書のイラストの拡大コピー等でも可）を活用すると視覚的なイメージがしやすいこと、本時の価値のまとめ（子どもから出た意見や考えのまとめのこと）を位置づけることなどを板書の見本を示していただきながら、ご指導いただきました。

最後に、道徳科に限ったことではないのですが、「話す力」「聞く力」を育てること、話しやすい雰囲気をつくることが一番大切であり、すべての教育活動において取り組んでいくことが重要であるとお話いただきました。

本講座で学んだことを各校・園で還流していただくとともに2学期からの実践に活かしていただきたいと思います。

アンケートより【一部抜粋】

・河合先生の講義から過去の自分の授業を振り返りました。今までは、登場人物の気持ちを考える発問ばかりしてしまっていました。今日の講義を踏まえて、これからは多様な意見が出る発問を選ぶこと、価値理解、自己を見つめる時間を多くとること、子どもたちの「話す」「聞く」力を育てることを特に意識しようと思います。（小）

・内容項目を確認し、子どもたちにどのような道徳的価値について考えさせ、議論させたいのかを実践できるような発問づくりが大切であることがよく分かりました。生徒たちの考えや価値観が素直に出せて、深めていくためには聞く姿勢や理解しようという気持ちが大切だと思うので、そういった点も指導していきたいと思います。（中）

